

「いじめなくそうデー」の取り組み資料紹介（5月）

新年度がはじまり、一ヶ月が過ぎました。生徒の皆さんは、新しいクラスには慣れてきたでしょうか。新しい友だちはできましたか。新しい出会いは大切にしたいものですね。お互いを思いやったり気遣ったりすることで、**新しい出会いが長い友情へとつながっていきます。**

さて、毎月第1水曜日は「いじめなくそうデー」です。いじめなくそうデーとは「**いじめはいけない**」という気持ちを確認し、どうすればいじめをなくすことができるのかを考える1日です。自分自身を客観的に見つめ、自分にとって今は何がいちばん大切か、そのために何をしなければならぬのかを考えてもらうきっかけとなる時間です、この放送の後にも仲間と協力し、目標に向かって物事をやり遂げていくことの素晴らしさについて考えるなど、多方面からしっかり考えてください。

現代の社会では、悲しく、痛ましい事件や事故、災害などが日本のみならず世界中で起こっています。自分たちにとってもこれから経験する可能性がある話で、決して他人事ではありません。皆さんには、自分を大切にしてほしい、楽しく充実した学校生活を送ってほしい、この先、苦しくて頑張らなくてはならないことがあったとしても幸せになってほしい、そう思うのは、保護者や先生、君たちの周りの人すべてです。だからこそ、「いじめなくそうデー」で取り上げた内容で学習し、他人の気持ちがわかる、視野の広い人になってほしいのです。

次の話はその中でも、いじめの発端となる、いじめをしている人の心考えた、精神科の医師である、齋藤 環^{たまき}さんの話になります!! 齋藤 環^{たまき}さんは、いじめている人は安心感を求めていると考えました。しかしその安心感は自由を奪うとも言っております!! お聞きください!!

いま、だれかをいじめている君に伝えたいことがあります。

君は、ひょっとすると、家でつらい思いをしたり、以前に自分自身がいじめられたりして、嫌な経験をしたことがないだろうか。

そのはけ口として自分より弱い相手や、すでにいじめられている友達に対していじめたいという気持ちになっていないだろうか。

私は、仕事で、そういう例をたくさん知っています。

君のような気持ちは、実は、特別なものではありません。その証拠に、いじめは大人たちの世界でもよくあることなのです。

だれかをいじめると、ときには気分がよくなってしまふことがあります。進んでだれかをいじめなくても、いじめ側にいると、自分が安心できる面もあります。

でも、人をいじめることで得られる安心感は、たしかなものではありません。それをやめると、今度は自分が、いじめられるかもしれないという怖さがあります。実際はひどく不自由な気持ちで暮らすことになります。それは、大人の世界もまったく変わりません。

だけど、君には、ここで立ち止まって考えてほしい。大人になっても、だれかを傷つけるような人になりたいかどうか。いじめを続けることで、失われるものがたしかにあります。自分自身が大切で、かけがえのない人間であるという自覚が、いちばんに損なわれます。

もし、それが大事だという感覚を失わずに、本当に自由な気持ちでいたいのであれば、どこかではっきりと気持ちを切り替えて、いじめをやめる勇気を持つことが絶対に必要です。

(朝日新聞2006年11月15日掲載)

どうですか!?

いじめは相手にとっても自分にとっても絶対いけないものです!!

毎日の日常生活の中にも困っている人や、苦しんでいる人がいた時は手を差し伸べてあげてください。そのためには日ごろから相手を思いやり、相手のことを考えてあげることが大切です。

まだまだ一年は始まったばかり。みなさんは今年一年間友達とどんなふうに過ごしますか。

困っている人は、一度深呼吸をし、周りを見渡してください。協力してくれる人はたくさんいるはずですよ。決して一人ぼっちではありません。

自分を大切に、周りの人を大切に、そして人と人のつながりを大切にしてください。